

令和2年度生徒指導集中対策，生徒指導実践指定校及び不登校等未然防止推進校

「指定校における取組事例」

学校名	三次市立十日市中学校	校長	迫田 隆範	担当者名	政倉 悠治
-----	------------	----	-------	------	-------

取組事例名 『学び方を学び，自分の学び方のヒントを見つけよう』

生徒指導に係る連携体制の確立	カウンセリング・マインドをもった教職員と児童生徒との対話	○	主体的な活動を通じた絆づくり
----------------	------------------------------	---	----------------

取組における育てたい資質・能力

- 主体性
- コミュニケーション能力

取組のねらい

- ・自分から進んで学ぼうとする態度を身に付けさせることをねらいとし，自主学習ノートを持ち寄り，工夫点を紹介したり，他の人の工夫を知ったりすることで，自己の学び方を振り返りこれからの学び方を考えさせる。
- ・特に3年生にはリーダーとしての自覚をもち集団を引っ張ったりまとめたりする力を付けさせることをねらいとし，司会や計時，話し合いをコーディネートする役割等を任せ，自己を見つめる機会とする。

取組の具体的内容

- ①自主学習ノート「一押しページ」を紹介しよう。
  - ・心がけていること，一押しの理由，工夫点などを話しながら紹介する。
- ②グループの人の自主学習ノートのよさを見つけよう。
  - ・よさ，アドバイスなどを付箋に書いて張り付ける。
- ③意見交流をしよう。
  - ・今回交流してみて感じたことや学習に関わって，工夫していること，困っていることなどを交流する。先輩に質問をしてもよい。
- ④今日の学習のまとめと振り返りをしよう。



取組の創意工夫

- ・3年生が司会進行を行い，生徒だけで授業を進めるようにした。
- ・KJ法を用いることにより，意見交流がしやすくなり，全員が交流に参加することができた。
- ・縦割りのグループで交流を行った。このグループを1年間通して変えないことで，異年齢での活動における意見交流が活発になった。

取組の成果と課題

7月と11月にアンケートを行い，「日常生活の中で自分の思いや考えを積極的に話している」の項目が全学年で肯定的な回答が増加した。異年齢交流の活動を通して，自分の考えや思いを伝えることで安心して話せる機会が増えたと考えられる。また，「授業でみんなで考えることで一人で考えるより考えが深まる」の項目については全学年減少している。協同学習を行う際に，自分の考えや思いを伝えることはできているが，聞いて考えが深まっていない生徒がいることが課題である。人の考えを聞くときの視点を与えるなどの工夫が必要であると考えられる。